

4-4 史料編纂室

4-4-1 はじめに

分子研は平成 16 年に創立 30 周年を迎え、その翌年（平成 17 年）「史料編纂室」が分子研南実験 109 号室に設置された。それ以来、アーカイブズ活動を行っている（分子研レポート 2006 参照）。分子研の設立の歴史はかなり長く、分子研設立の勧告が日本学術会議から出されたのは昭和 40 年であったが、国内事情により分子研設立まで十年の歳月が経過した。日本化学会は昭和 38 年に化学研究将来計画委員会を設け、化学の諸分野から提案された 6 研究所について設立案が検討され、学術会議の審議を経て分子研設立が勧告された。分子研創設に至る長い年月にわたる貴重な記録や歴史的な資料（とくに分子研設立に関連する種々の委員会の議事録や配付資料など）を可能な限り収集・保管することはアーカイブズの観点から極めて重要である。

4-4-2 昨年までの状況

史料編纂室では、これまで、「分子研設立に至った経緯」、「準備室時代」、「創設第 1 期」などの史料の収集・整理を行って、その目録を作成するとともに「文書保存箱」に収納する作業を進めている。昨年度の分子研レポート 2006（38 ページ）では、長倉三郎先生および井口洋夫先生から提供された史料について紹介した。長倉先生から提供された史料は、1) 学術会議の勧告以前に設けられた「日本化学会将来計画委員会」の動向、2) 学術会議の勧告以後の「分子研小委員会」の動向、3) 「分子科学特定研究」の課題などに関するものである。井口先生からの史料は、1) 分子研準備室時代、2) 分子研創設初期のものなどである。

4-4-3 今年度の活動状況

今年度は、長倉先生から新たに次のような追加史料が提供された。1) 第 2 回化学研究将来計画委員会議事録（昭 39）、2) 農化・薬学との Joint Committee 議事録（昭 39）、3) 分子科学サーキュラー（第 2 号）に掲載された「分子研設立計画について」の長倉先生の手書き原稿、4) 分子科学特定研究の申請書（昭 45）、中間報告（昭 46）、報告（昭 48）、5) 分子研創設準備会議第 1 回（昭和 49）から第 6 回（昭和 50）まで、6) 「分子科学研究所 前史」（長倉著）化学研究将来計画委員会の審議から創設準備室の設置まで。

さらに、細矢治夫氏（お茶の水女子大名誉教授）・岩田末廣氏（分子研名誉教授）から分子研に関する次の資料が提供された。1) 分子研サーキュラー No.1-19（ただし No.13-15 欠落）、2) 創設協力者会議第 1 回（昭 50）- 第 14 回（昭 51）、3) 分子科学研究会会報 No.1（昭 42）から No.12（昭 46）、第 4 期（昭 50）- 第 11 期（昭 61）、4) 分子科学若手の会——夏の学校（昭 39）、会報 No.2, 4（昭 48）など。その他、岡崎統合事務センターからは分子研の評議員会、運営協議員会、運営連絡会議、学会等連絡会議などの議事録や配付資料など多数が提供された。

最近、総研大はじめ、種々の共同利用研究所（核融合研、高エネ研など）においてアーカイブズ活動が活発に行われている。そうした研究機関のアーカイブズ室（史料室）との連携を保つことはアーカイブズに関するノウハウを得るのに非常に参考になっている。具体的には、核融合研「アーカイブズ打合せ」（毎月 1 回）、総研大プロジェクト「大学共同利用機関の歴史」研究会（平成 19 年 3 月）および「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズに関する打合せ（EAD による資料目録共有化の検討および作業）」（平成 19 年 9 月）、そのほか UCLA-KEK- 総研大の国際シンポジウム（平成 19 年 8 月）などに参加し、アーカイブズについて有益な多くの情報が得られた。

最後に、今後の方針であるが、上記の共同利用機関アーカイブズ室との連携を保ちながら、史料の収集・保管を進めるとともに、史料の複写およびデジタル化（PDF）、共同利用研との史料共有化の作業も検討していく。